

# 厳しい時こそ、『スポ根』でいこう！

はまぐち  
濱口

まこと  
誠

自動車総連・事務局次長

タイトルを見て「スポ根って何？」と思われた方もいるかも知れない。スポ根とは、「スポーツ」と「根性」を合成した言葉で、日本のマンガやアニメ、ドラマのジャンルの一つである。

私なりの「スポ根」とは、あらゆる困難、逆境に立ち向かい努力を積み重ねていく、そうした生き様、姿勢であると思っている。

スポ根マンガと言えば、皆さんは何を連想するだろうか？「アタック 1?」「あしたのジョー?」。私は、星飛雄馬が大リーグボール養成ギブスで投球練習するひたむきな姿が忘れられないので、やっぱり「巨人の星」かな。

一方、少女マンガにも、この「スポ根」が貫かれていて、30年以上、43巻も連載が続いている作品がある。「ガラスの仮面」がそれだ。この作品は、スポーツがテーマではなく、演劇をテーマにした少女マンガである。

「ガラスの仮面」では、貧しい家庭に育った主人公の北島マヤが、どんな困難にも負けずに目標に向かって突き進んでいく生き方（まさに、「スポ根」）が、多くの読者に共感を与え続けているのだ。

翻って、労働組合の取り組みを振り返った時に、私たちは「スポ根」に通じるような、熱い取り組みができているだろうか？

2009年の日本経済を取り巻く環境は、100年に一度と言われる経済危機の影響を受け、未曾有の厳しさとなっている。

こうした中で、春の取り組み、働き方の見直

し、職場実態の把握、産業政策、政策制度課題への対応、組織活動の強化・・・労働組合として、取り組むべき課題、テーマは山積している。

どれも簡単に解決できるものではない。しかしながら、こういう厳しい時だからこそ、労働組合の取り組みには、「スポ根」が大事なのではないかと思う。一つひとつの課題・テーマに対して、真正面からぶつかっていく、目をそらさない、努力を積み重ねていく、そうした愚直で地道な活動こそが労働組合の原点であり、今後も大切にしていかなければならない。

組合役員の大先輩から、「労働組合の運動とは、長い坂道を重いリヤカーを引いて登るようなものである」と伺ったことがある。私としては、非常にわかり易い、的を得た喩えだと感じた。

私なりの解釈は、「労働組合の運動とは、坂道を登るように少しずつ前進していくことが大事である、その一方で、少しでも力を緩めると坂道を下るように後戻りしてしまう難しさもある」と受け止めています。

労働組合が、登らなければならない坂道はこれからも続くし、その勾配はさらに急になるかもしれない、曲がり角もあるかもしれない。これからも、諸先輩方が登って来られた坂道を、更に上を目指して登り続けられるように、我々現役の組合役員は、力を緩めることなく様々な課題に取り組んでいかなければならない。

あらゆる困難に立ち向かい、ひたすら努力を積み重ねていけば、必ず道は拓けるという「スポ根」の生き様を心に刻みながら・・・。